

# 高取町の教育

## 令和元年度全国学力・学習状況調査結果から見える高取町の子ども

### 1 調査の概要について

#### ○ 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### ○ 実施日：平成31年4月18日（木）

#### ○ 調査対象とする児童生徒：小学校第6学年（52名）、中学校第3学年（41名）

#### ○ 調査事項及び手法

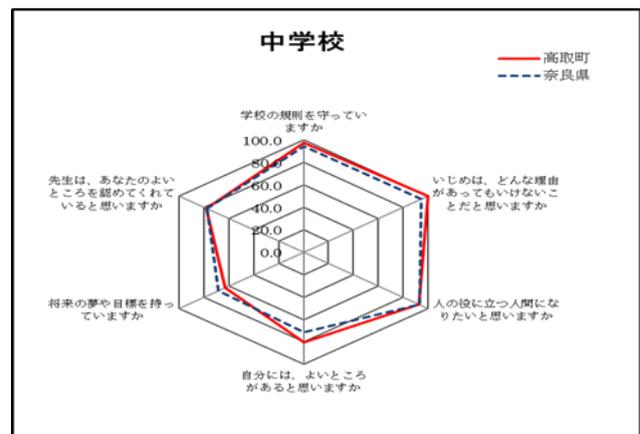
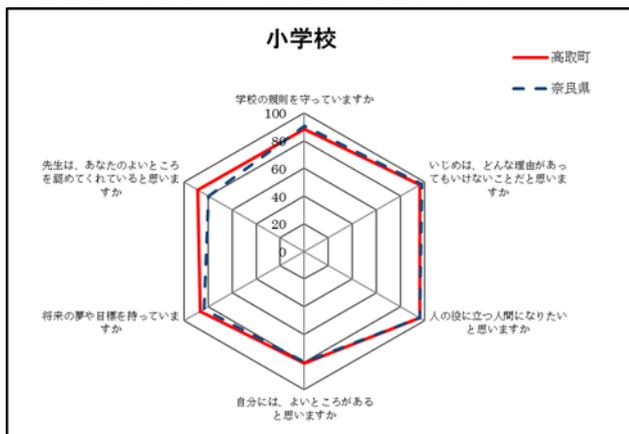
- ・ 質問紙調査：学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。
- ・ 教科に対する調査〔国語、算数・数学、英語(中学校)〕

#### ○ グラフの見方

- ・ グラフの数値は素点（テストの点数）ではなく、正答率（最高100%）です。  
赤のグラフが青のグラフより大きい ⇒ 高取町の成績が県平均を上回っている。  
赤のグラフが青のグラフより小さい ⇒ 高取町の成績が県平均を下回っている。

### 2 調査結果について

#### ○ 生活習慣や学習環境等に関する調査（抜粋）



#### 本町の児童・生徒のすがた

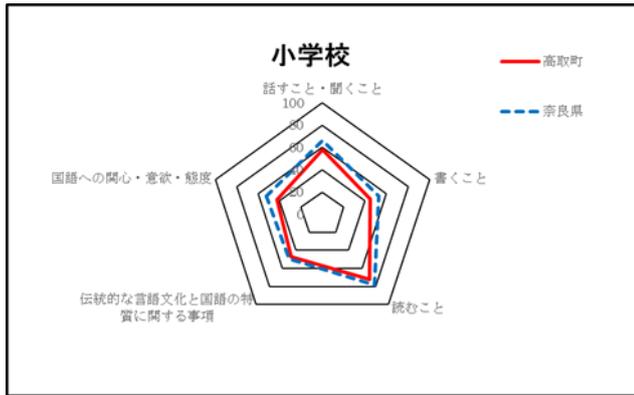
○小学校は、「将来の夢や目標を持っている」や「先生は自分の良いところを認めてくれる」と思っている割合が、県平均を上回り、明るく楽しく学校生活を送っていると考えられます。その他の項目は、県平均同様の傾向を示していますが、引き続き規則の尊重や善悪の判断についての取り組みを、道徳の時間を中心に全教育課程において行っていきます。

○中学校は、特に「自分にはよいところがあると思いますか」「学校へ行くのは楽しいと思いますか」の項目について県平均を上回っていますが、「将来の夢や目標を持っていますか」の項目については県平均をやや下回っています。

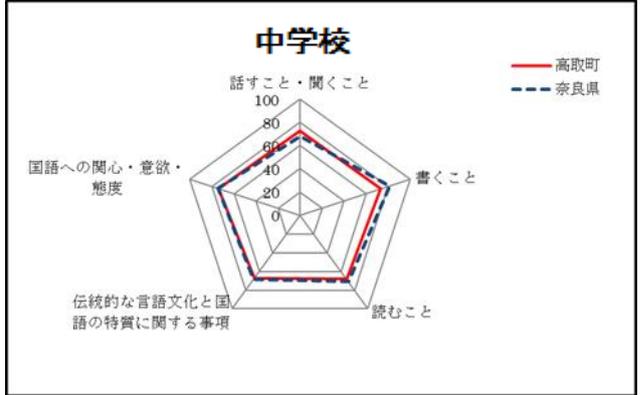
○小中学校とも、「学校の規則を守っていますか」、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の規範意識に関する項目が県平均と同等か上回っています。学校での学び、保護者の励まし、地域との関係等が良好であり、落ち着いた生活を送っている姿が現れたものと考えられます。その他の項目については、小中学校で結果に違いがみられます。

○ 学力に関する調査

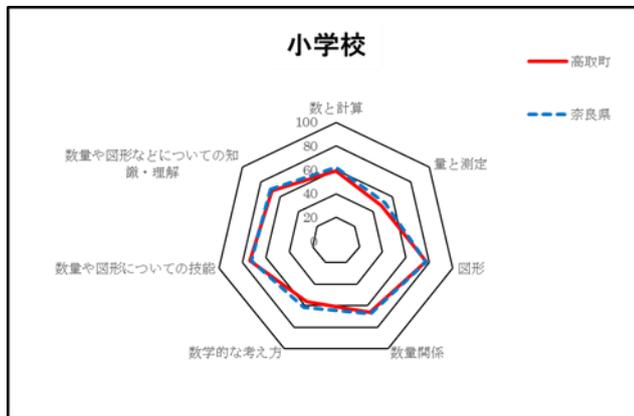
国語



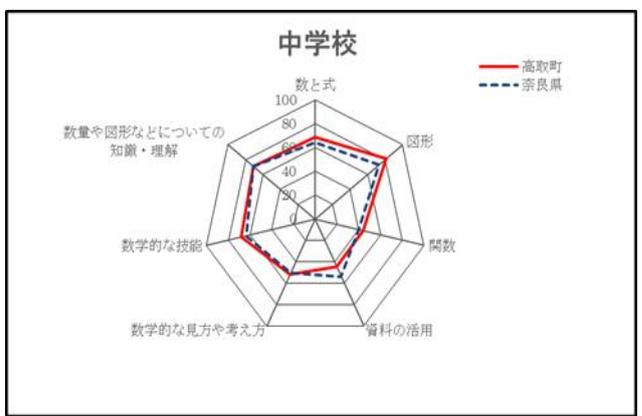
国語



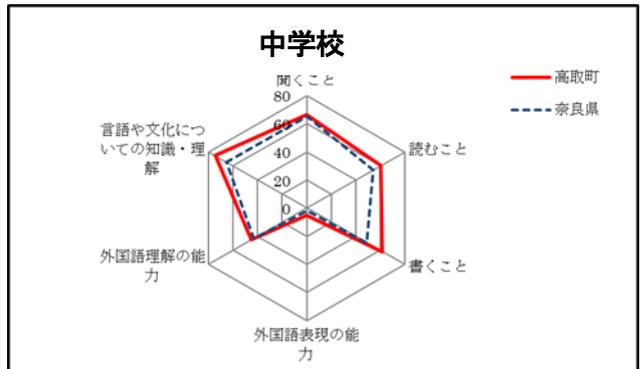
算数



数学



英語



### 本町の児童・生徒のすがた(学力)

- 小学校の国語は、すべての観点について、県平均をやや下回っています。特に、「書くこと」、「読むこと」、「話すこと・聞くこと」の基礎的な技能を下支えする「国語への関心・意欲・態度」が低いことに課題があると思われます。
- 小学校の算数は、「数量や図形についての技能」が県平均を上回りましたが、その他は県平均と同等か、やや下回りました。特に、「量と測定」と「数学的な考え方」において、課題があると思われます。
- 中学校の国語は、全般的に県平均をやや下回っています。「話す力」「聞く力」においては県平均を上回っているものの、「書く力」が県平均を下回っている現状です。
- 中学校の数学は、全般的に県平均をやや上回っています。特に「数と式」「図形」の分野において県平均を上回っています。一方、「資料の活用」の分野では県平均をやや下回る結果となっています。
- 中学校の英語は、全般的に県平均を上回っています。とりわけ、「読む力」「書く力」「表現力」において県平均をかなり上回っています。一方、英語の「話すこと」(音声録音)においては、やや全国平均を下回っています。
  
- 昨年まで国語、算数・数学の調査がAとBに分かれていましたが、今年度より国語、算数・数学に変更されました。一方、中学校では、新しく英語が加わりました。次年度は、小学校では国語・算数、中学校では、国語・数学の調査が実施される予定です。
- 小中学校とも、総合的に基礎的な知識を大切にし、活用力をさらに伸ばすことが大切であると考えます。

### 3 課題に対する改善方法

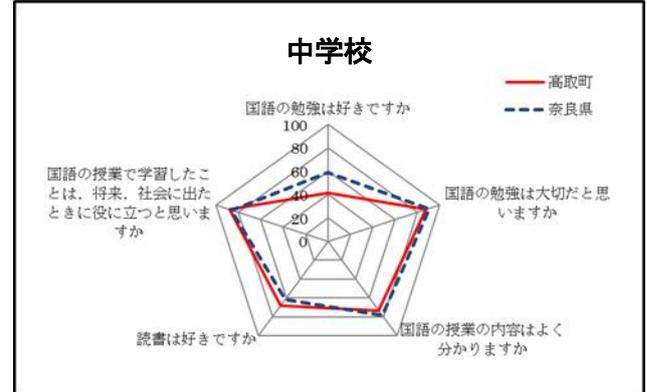
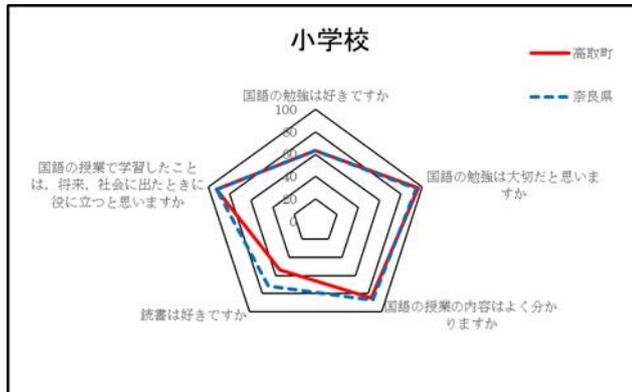
- 小学校は、基礎・基本的な知識技能の向上を図るため、今後も継続して「朝学習(読書・計算)」をさらに工夫改善しながら充実させ、取り組んでいきます。また同時に、学習に対する関心や意欲を高める授業を工夫することで、子どもたちの自主的な学習態度を養うことに重点を置きます。
- 小学校は、規範意識やいじめに対する意識が、県平均よりやや下回っているため、人権教育や道徳教育をさらに充実させていくことに取り組んでいきます。また、今後も、一人ひとりの持てる力、自分の良いところを伸ばし、さらに自己肯定感を高めていけるように、学校生活の様々な活動の場面で子どもたちの輝いているところを見つけ、それらを教職員間や保護者の方々と共に共有できるように取り組んでいきます。
- 中学校では、国語・数学・英語ともに基礎的な力や知識はあると考えられます。国語においては、「話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ」趣旨分野において優れている面が見受けられるものの、「書くこと」の活用能力に弱い点が見られるので、作文などの文章を自ら作成する機会を増やししながら、朝読書で読んだ本の感想を書かせるなどの工夫をします。加えて主体的な言語活動を国語の授業においてのみならず、すべての教育活動の中で積極的に展開し、コミュニケーション能力のさらなる向上に努めていきます。そのためにも教職員が研修を重ね、授業の創意工夫をし、「よりわかりやすく、質の高い授業」を目指していきます。
- 中学校は「学校の規則を守っていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」の質問について、いずれも県平均を上回っています。一方で、「将来の夢や目標を持っていますか」については県平均を下回っています。規範意識も高く、なかまを大切にしながら地域社会への帰属意識も高いものの、将来への展望に不安をもつ生徒の現状が見られます。従来から実施している職場体験学習において、望ましい勤労観や職業観を培うため、その内容をより充実させるとともに、日々の学校での活動の中で、教師が生徒の様子をきめ細やかに観察することで、個々の長所を見い出しながら前向きな言葉がけを心がけるとともに、集団の中でお互いを認め合い、さらに自分の夢や理想に胸襟を開いて語り合えるような雰囲気づくりに努めていきます。
- 小中学校とも、コミュニケーション能力を高めるため、仲間とかかわる時間を増やし、グループ活動を取り入れることで、相手に自分のまとめた考えを伝え、表現する力を高めていきます。また、発達段階に応じた違いを小中学校で共有し、個を大切にしたい指導に努めます。

参考資料

○ 学習状況に関する調査（抜粋）

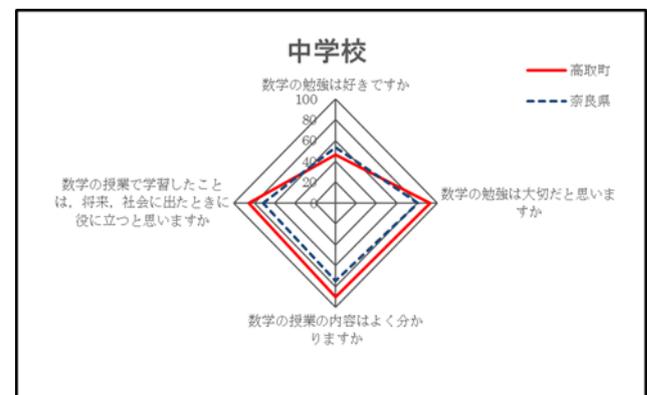
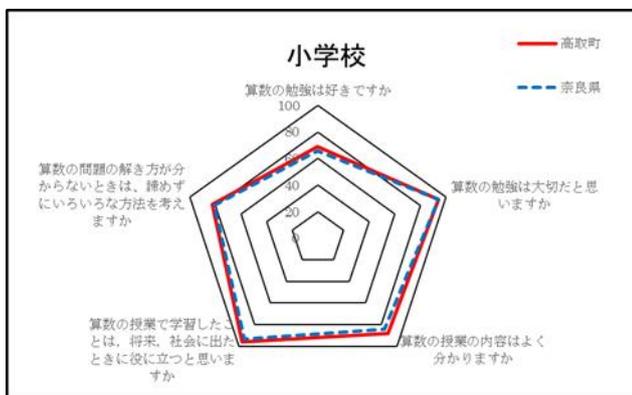
国語

国語

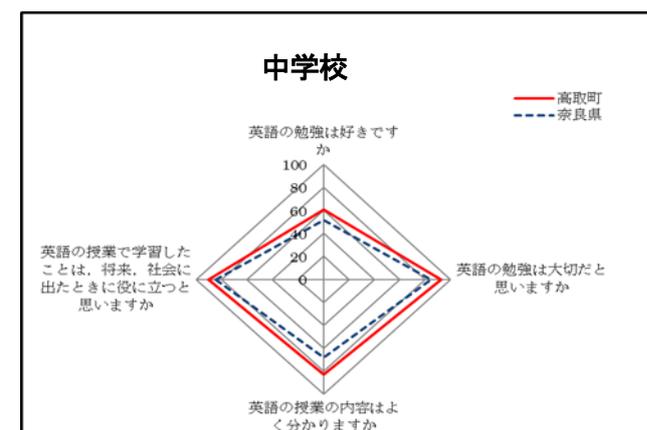


算数

数学



英語



本町の児童・生徒のすがた

○小学校は、国語に関する項目で「読書は好き」との回答が、県平均を下回っています。その他の項目については、県平均とほぼ同じ値であり、県内の一般的な小学生と同様の傾向を示しています。朝読書や絵本の広場などの取り組みを行っていますが、読み聞かせや図書委員会の活動なども含めて読書への興味・関心を高めるよう指導の充実を図っていきます。

○中学校では、落ち着いた環境で学習に取り組んでおり、一定の基礎的な力や知識は身につけていると思われます。国語、数学、英語共に、「学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問に対しても「役に立つ」という回答が多い傾向が見られました。